

健康のしおり

「顔面の痛み」

顔の痛みは、日常生活に大きな支障を与えるつらい症状です。食事や会話、歯みがきなどの動作で痛みが強くなったり、突然電気が走るような痛みが起こったりすることがあります。しかし、顔の痛みと一口に言っても原因はさまざまで、虫歯や歯周病、副鼻腔炎などの炎症による痛みのほか、三叉神経痛、非定型顔面痛、帯状疱疹に関連した痛みなど多岐にわたり、その治療法もさまざまです。今回は「三叉神経痛」「非定型顔面痛」「帯状疱疹に関連した痛み」について、その特徴と治療法をご紹介します。

■三叉神経痛

三叉神経痛は電気が走るような激しい痛みが短時間繰り返し生じる病気です。頬やあご、口の周りに痛みが出る事が多く、洗顔や歯みがき、食事、風が当たただけで痛みが誘発されることがあります。発作は数秒～数分と短いものの、非常に強いので、「顔の痛みの中で最も強い」とも言われます。

原因は顔に走る三叉神経という神経が脳から出るところで血管に圧迫され、刺激されて生じることが最も多く、稀には腫瘍により神経が圧迫されることで起こります。ところで顔にはたくさんの神経が分布していますが、三叉神経は顔の感覚、痛みを伝える神経です。顔を動かす神経は顔面神経ですので、これらは異なる神経です。顔面神経が障害されると、顔のマヒや痙攣が起こります。

治療には神経の興奮を抑える内服薬（カルバマゼピンなど）のほか、神経ブロック療法、放射線治療、手術（微小血管減圧術）などがあります。

■非定型顔面痛

非定型顔面痛は、明らかな神経の障害が見つからないにもかかわらず、鈍い痛みや圧迫感、重だるさが長期間続く病気です。三叉神経痛は片側の鋭い短時間の痛みですが、これとは異なり、痛みは持続的で、痛む場所が両側や広い範囲なことが特徴です。「なんとなく痛い」「重いような、締め付けられるような感じ」

と表現されることが多く、ストレスや疲労で悪化することがあります。

治療には内服薬（抗うつ薬・抗てんかん薬など）を併用しますが、首にある自律神経（星状神経節）へのブロックが有効な場合があります。自律神経を局所麻酔薬でブロックすることにより、血流改善や神経の過敏状態をリセットする効果が期待できます。

■帯状疱疹に関連した痛み

帯状疱疹は、水ぼうそうのウイルスが再び活性化することで起こります。顔に発疹と痛みが出た場合、目や耳の合併症を起こすこともあり、早期の診断治療が大切です。発疹が治った後もチクチク・ピリピリした痛みやしびれが続くことがあり、これを帯状疱疹後神経痛と呼びます。

発症初期には抗ウイルス薬の内服が有効です。ただし、初期には痛みだけで皮疹がまだ出ていないこともあり、特に髪の毛の中などは発疹が見つかりにくい場合があります。慢性化した帯状疱疹後神経痛には、非定型顔面痛と同様に、抗うつ薬・抗てんかん薬などの内服薬に加え、首にある自律神経のブロックを行うことで痛みを抑える効果が期待できます。また、帯状疱疹は高齢者ほど痛みが長引きやすく、ワクチンによる予防が大切です。

■まとめ

顔の痛みは、原因ごとに治療法が異なります。痛みが強い・長く続く・生活に支障が出る場合には、我慢せず早めに専門医の診察を受け、適切な治療を選択することが大切です。

緩和会横浜クリニック

院長 新堀 博展

港南区医師会 学術研修部